

# OTO GAWA

愛知県岡崎市の乙川リバーフロント地区では、2015年から主要回遊動線「QRUWA(くるわ)」を中心に、豊富な公共空間を活用した複数の社会実験を通して、公民連携プロジェクトを立ち上げ、「QRUWA戦略」としてエリアの再生に取り組んでいます。

QRUWA 

自分たちの  
まちが  
できるまで

# GRAND DESIGN

## CONTENTS

02 PROJECT SUMMARY ノン・ profit 非営利 QRUWA 事務所

03 QURUWA PROJECT-4 2 世 @ 設備・流通・左岸の指定管理者による運営開始

04 QURUWA PROJECT-7 東区通り沿いのデザイン策定

05 RELATED PROJECT QURUWA ミニマリング & 情報発信

07 QURUWA PROJECT-3 オートバイ @ オートバイ バイパス・テラスがスタート

08 QURUWA PROJECT-5 乙川沿いのマーケット

ブランディング &  
情報発信、  
始動

乙川リバーフロント地区の  
公民連携まちづくり  
2021年度、7年目の取り組みを収録。

- 09 QURUWA PROJECT-3 東岡崎駅2期整備の協定締結
- 10 CONFERENCE 本営に住んで幸せな街・まちにしたい地域の価値を上げるために
- 12 RELATED PROJECT 1 町・広域連合会・次世代の会」の発足
- 14 SYMPOSIUM Meguru Quruwa ver.2.0
- 17 RELATED PROJECT QURUWA 事務所 NON-PROFIT QURUWA 事務所情報
- 19 CONFERENCE 2021年度デザイン会議



## プロジェクトサマリー

# 2021年度 QURUWAの まちづくり

2015年からはじまる乙川リバーフロント地区のまちづくり7年目となる2021年度は、2020年から続く新型コロナウイルスの感染拡大は衰えることなく、緊急事態宣言などの規制によって飲食店や小売店はもちろんほぼ全ての事業者がダメージを受けました。中止や延期を余儀なくされ、イベントの企画や運営は引き続き不安定な状況でした。

本紙では、QURUWA戦略に定められた7つのQURUWAプロジェクトに関連して、2021年度の主な動きをお届けします。

今年度の特徴としては、新型コロナウイルス感染拡大による判断の難しい状況ではあるなか、安全安心を第一として、適宜、イベントや取り組み実施の決断を取る方もおられました。

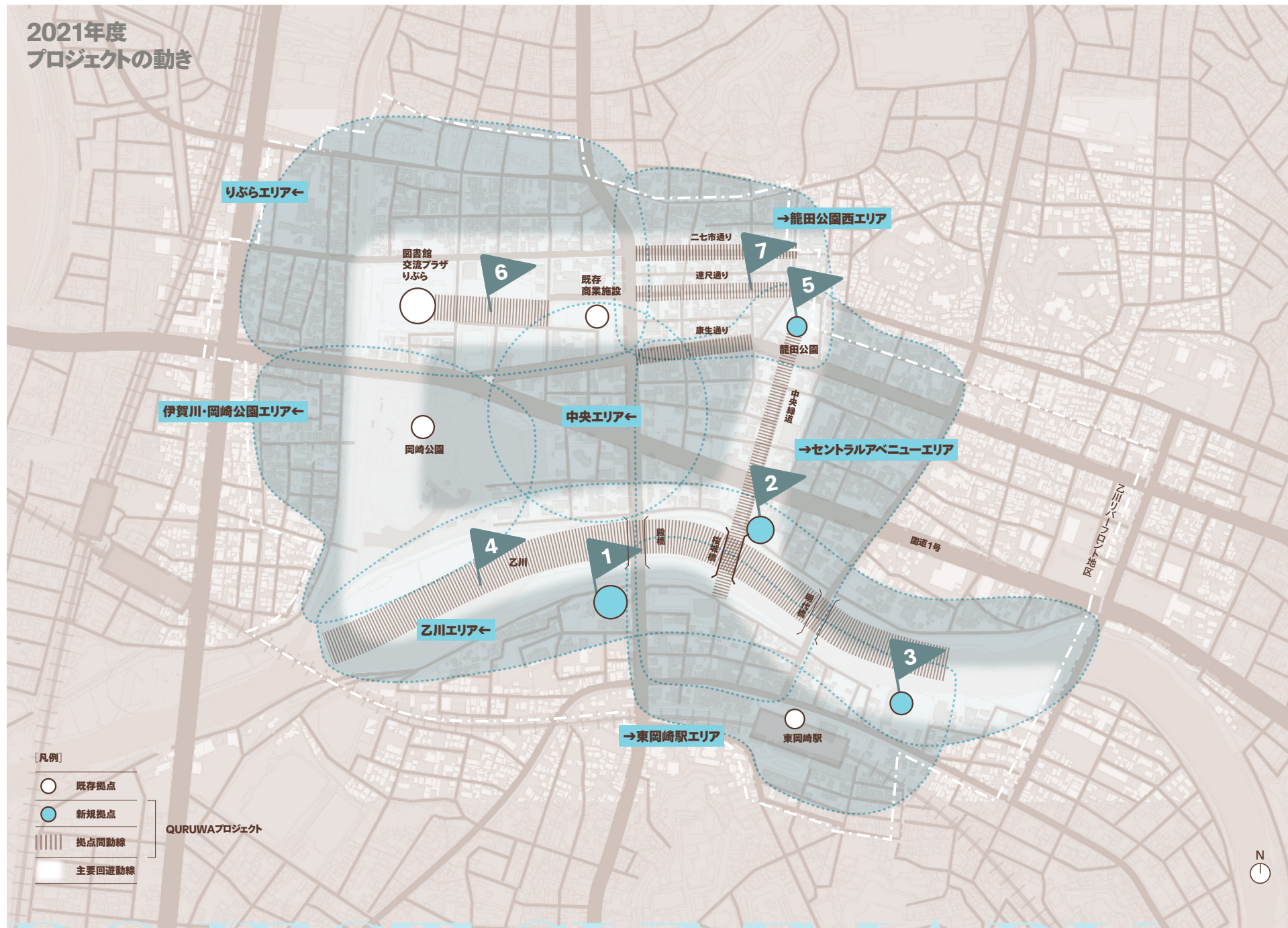
- 1 **QURUWAプロジェクト1**  
ホテル・コンベンションの整備・運営
- 2 **QURUWAプロジェクト2**  
桜城橋橋上広場・橋詰広場の整備・運営
- 3 **QURUWAプロジェクト3**  
東岡崎駅周辺の整備・運営
- 4 **QURUWAプロジェクト4**  
乙川のかわまちづくり
- 5 **QURUWAプロジェクト5**  
龍田公園・中央緑道の整備・運営
- 6 **QURUWAプロジェクト6**  
りぶら暫定駐車場の活用
- 7 **QURUWAプロジェクト7**  
道路空間の運営(康生・連尺・二七市)

## QURUWAプロジェクト-4 乙川@殿橋 下流左岸の 指定管理者による 運営開始

乙川リバーライフプロジェクト  
<https://otogawariverlife.com/>

QURUWAの拠点のひとつである乙川河川緑地は、まちなかにありながら、自然による季節の移ろいを感じることもできるオープンスペースとして、散歩や休息、遊戯等の様々な用途で日常的に利用される憩いの場であるとともに、年間を通して様々なイベントが開催されており、大勢の方に使われています。その乙川河川緑地のなかの殿橋下流左岸で指定管理者が募集され、ホームックス・スノーピークビジネスソリューションズ共同企業体が選定されました。乙川河川緑地を対象エリアにした、水辺空間活用のプロジェクト「乙川リバーライフプロジェクト」が発足し、さまざまなイベントが開催されています。

### 2021年度 プロジェクトの動き



乙川リバーライフプロジェクトの様子









QURUWAおしらせプロジェクト(Facebookグループ)

また、2020年度からスタートした、QURUWAの中で活動する人たちが自由に知らせできる仕組み「おしらせプロジェクト」も継続。Facebookグループ「おしらせプロジェクト」に投稿されたおしらせのいくつかは、QURUWAの中の東岡崎駅、リぶらなどに設置された「QURUWAボード」と「QURUWA仮設ウェブ」に掲載されていましたが、それを「QURUWAと、」のニュースコーナーから見られるようにしました。

また、地域の方々と連携し、QURUWAにあるお店を紹介する「QURUWAと探索」をスタート。Googleマップと連動し、まちあるきにも活用できるようにしました。

これまでの「仮設サイト」同様、これまでに刊行した資料をダウンロードできるようにしています。

ブランディングサイト「QURUWAと、」のねらいは単にページビューの増加だけではなく、アクションを起こす人たちをより多く増やすことととらえ、「トライページ」を開設しています。トライページでは、「〇〇したい人」というターゲットのもとに、具体的に情報を提供しています。また、何かに挑戦したい人のためのツールをダウンロードできるようにしています。

また、QURUWAですでに「TRY」した、事業者のみなさんを紹介するインタビュー記事「あの人のトライ」もスタートしています。

QURUWAボードは引き続き東岡崎駅、リぶらともに設置し、地域の方々が運営をしています。プロジェクトを1年ごとに振り返りできるように継続刊行している本誌「Log」も継続して刊行していきます。



QURUWAボード | 東岡崎駅



QURUWAボード | リぶら

## QURUWAプロジェクト-3 オトマルシェ@ オトリバーサイド テラスがスタート

「丁寧な手仕事による美しいモノ、美味しいモノ」

開催：2021年11月1日から毎月1日8:00-12:00  
場所：OTO RIVERSIDE TERRACE 及び  
乙川河川緑地(明代橋公園)

みんなの日常に根づくマルシェとして、“人の心と体を良くする”“自然環境を良くする”“未来を良くする”をテーマに、毎月1日開催の朝市「オトマルシェ」が11月1日にスタートしました。OTO RIVERSIDE TERRACEのテラス部分「テラスエリア」や河岸部分「リバーサイドエリア」などを使って開催されています。自然栽培の野菜農家や暮らし道具作家による販売など、飲食、物販、パフォーマンスのさまざまな出店がありました。

来場者は、ベビーカーの赤ちゃん連れの方から杖をついた高齢の方、犬連れの方や仕事前の方、散歩中の方など多岐にわたります。マイバッグやマイ容器、マイタッパーのご持参ご協力の呼びかけに8割以上の方々がご協力して頂いた、とのこと。11月はじめての開催だったため、出店者の搬入搬出や来場者のアクセス方法など改善点も見えたそう。

Instagram



オトマルシェの様子



オトマルシェ、リバーサイドエリアの様子



オトマルシェ、テラスエリアの様子



# QURUWAプロジェクト-5 丘の途中の マーケット

地勢が活かされた魅力的な坂の緑道で、  
このまちの“ちょっと先の日常”を  
妄想したマーケット

開催：2021年11月23日[火/祝]11:00～16:00  
場所：中央緑道（愛知県岡崎市康生通南3丁目）、  
籠田公園南側、周辺店舗  
主催：丘の途中のマーケット実行委員会  
協力：7町・広域連合会

中央緑道、籠田公園南側、周辺店舗を舞台に  
した、新しいマーケットがスタートしました。「魅  
力的な街には共通して、目には見えないけれ  
ど確かに感じられる“街がまとう期待感”のよ  
うなものがあると思います。そのような曖昧な  
ものを誰かと共感できた時にはその街で何か  
始めたくります。それらの衝動が少しずつ繋  
がり、街がまとう期待感を“ちょっと先の日常”  
として妄想し、カタチにしてみようと企画したの  
が丘の途中のマーケットです。」というコンセプ  
トテキストが掲げられています。

舞台となるのは、川と公園を結ぶ生活道路  
で、河岸段丘による約5mの高低差など地

勢がそのまま活かされた視線の抜けが楽しい  
変化に富んだ坂の緑道であり、2019年から  
2021年にかけて、「道であり、広場でもある」  
という「みちひろば」空間をコンセプトに改修  
された「中央緑道」。そして中央緑道と合わせ  
て改修され、子育て世代を中心に利用者が増  
え、日常的な賑わいが生まれつつある「籠田  
公園」。街中にも回遊してもらうため、その周  
辺店舗も出店者となっています。40を超える  
出店とともに、多くの来場者が見られました。



中央緑道の道路側から



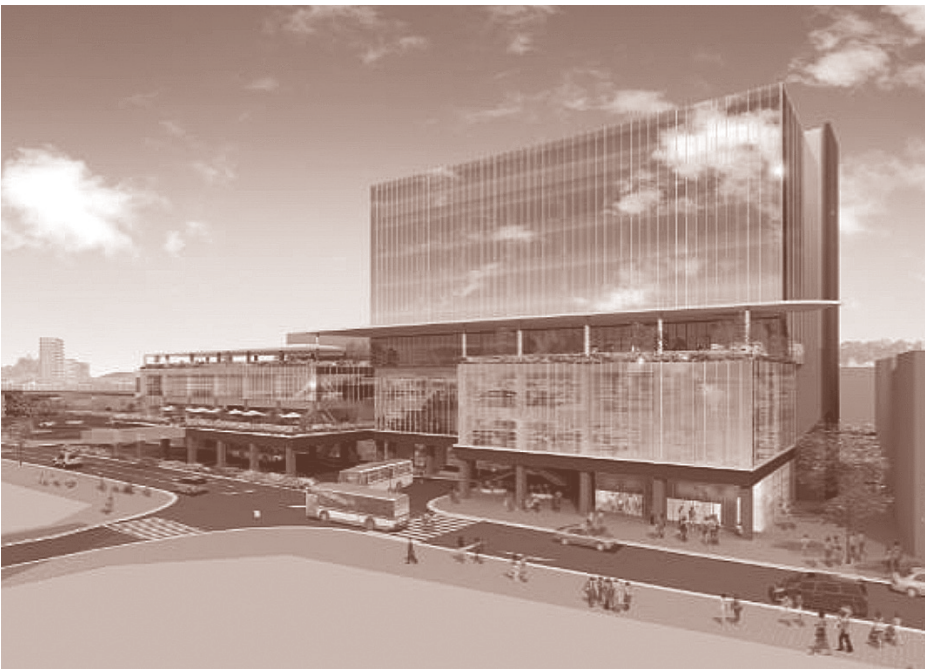
中央緑道のテラス側から



# QURUWAプロジェクト-3 東岡崎駅の 南北一体的な 再開発

本市と名古屋鉄道は、橋上駅舎、南北自由通路、  
バスターミナル及び北口新駅ビルを協働で整備  
するため、基本協定を締結しました。その後、南  
口周辺を対象エリアに加えた南北一体的な再開  
発計画が名鉄から発表されています。

東岡崎駅は、西三河地区最大のターミナル駅  
として多くの通勤・通学者に利用されています。  
その東岡崎駅における南北一体的な再開発  
は、名鉄グループ中期経営計画「Turn-Over  
2023」で掲げる「グループ一体となった沿線・  
地域の活性化」の一環として取り組むものに  
位置づけられています。本市には、世界的に類  
を見ない貴重なジャズレコード、雑誌、オープン  
リールテープなどが所蔵されており、国内有数の  
ジャズイベントが開催されるなど「ジャズの  
街」として広く知られていることから、ジャズ特  
有の躍動的なリズム感である「SWING」とい  
う言葉を使った「SWING HIGAOKA –この  
街の躍動的なリズムをリードする–」が再開発



北口新駅ビル（北西より俯瞰）



南口ビル（南東より俯瞰）

のコンセプトになっています。  
「SWING」が持つポジティブな意味合いを踏  
まえながら、QURUWA戦略と連携し、この  
再開発を通して駅施設を起点とした躍動的な  
リズムをつくり出すこと、地域の個性を引き立  
てることが目指されています。また、コロナ禍に  
よって大きく変化する消費行動ニーズをとら  
え、岡崎の玄関口としてにぎわいを創出し、地  
域一体になったまちづくりを推進していくとあ  
ります。

以下、2022年3月24日名古屋鉄道プレスリ  
リースより。

## 北口

第一種市街地再開発事業の施行を予定し、  
現在の駅ビル（岡ビル）の解体後、駅利用者お  
よび来街者をターゲットとした商業機能およ  
び、駅につながる利便性の高い事務所機能  
を有する複合施設を整備するほか、バスター  
ミナルを再整備する事で交通結節点としての  
役割を強化します。  
施設全体では、街周辺への回遊起点として観  
光ニーズにも対応した店舗や、バスターミナ  
ルでの乗換え時間等も有意義に過ごせるよ  
う、すき間時間のニーズにも対応した店舗を  
配置します。さらに、イベント等多目的に活用  
できるスペースを一体的に整備することにより  
にぎわいを創出します。

鉄骨造地上8階建て | 延床面積は約13,000㎡  
商業、事務所、公益施設  
着工は2027年度内、竣工は2029年度内

## 南口

周辺居住者と駅利用者をターゲットとした施  
設として位置付けています。食品等物販店舗  
に加え、飲食、サービス等の用途を取り入れ  
た生活利便性の向上に寄与する店舗を誘致  
し、周辺居住者にも選ばれる駅南口のシンボ  
ルとなるような施設を目指します。  
また、岡崎市は徳川家康生誕の地としても知  
られており、市内には所縁の深い神社仏閣が  
多く、駅南口至近には徳川家康の産土神とし  
て有名な六所神社があります。こうした周辺  
施設の立地にも配慮し、動線計画を含めた施  
設計画を進めます。

鉄骨造地上3階建て | 延床面積は約3,000㎡  
商業施設  
着工～竣工まで2023年度内

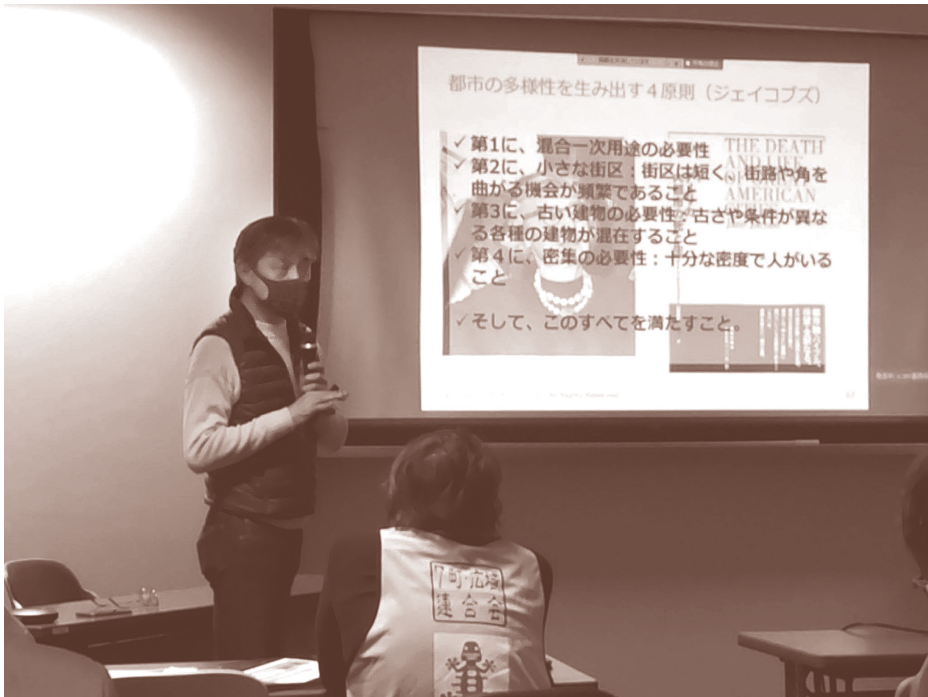


KCBM

# 本当に住んで 幸せな街 センシュアス・シティ (官能都市)

日時：令和3年12月26日[日] 18:40～19:50  
場所：岡崎市民会館 2階大会議室

講師  
**島原万丈**  
株式会社LIFULL HOME'S 総研 所長



講演会の様子

2021年12月26日に、7町・広域連合会の会議において、LIFULL HOME'S総研所長の島原万丈氏をゲストに迎えた講演会が開催されました。LIFULL HOME'S総研とは、アパートやマンション、戸建て等の住宅・不動産情報サイトを運営する『HOME'S』の中にある民間シンクタンクです。「住むこと」がより豊かでもっと自由になるよう、リノベーションや寛容社会、住宅幸福論など住まいに関わる独自の調査研究をしており、QURUWAが本当に住んで幸せな街となるヒントを得るため、「センシュアスシティ：官能都市」をテーマにご講演頂きました。

「官能都市」とは、人間の五感である「官能」という観点から都市を見ようというもの。誰しもが感じたことのある、「この街、何かいいよね」という感覚の、この「何かいいよね」をどのように測るのか。島原氏の講演のメッセージは、「都市にはもっと官能が必要である」ということ。これからの都市がどうあるべきなのかを考えるに、新しいアイデアが新しい経済を生む時代になっている。知識のある創造的な人たちが新しいビジネスを思い付くような人たちが集まるまちでなければ、経済成長はないということが、クリエイティブ都市論というジャンルで語られています。

ところが多くの都市では、スタジアム、高速道路、都心のショッピングモール、テーマパークのような観光娯楽施設ばかりが目立ちます。

このような「ハコモノ」はクリエイティブな人たちには無意味です。それよりも彼らが求めるのは、住まい方や生き方。その指標を可視化するため、「アクティビティ、空間、建築」という順序で考えるべきであると語る、コペンハーゲンを中心とする都市プランナーであるヤン・ゲールの考え方をもとに、センシュアス・シティがつくられました。

「アクティビティとは要するに動詞です。これまで都市の指標とされてきたような、都市公園面積や病院のベッド数は名詞です。名詞ではなく動詞でまちを測ったらどうかというアイデアです。」

まちには多様な人が住み、人々との関係性の中で住んでいるということは、その中に生まれるチャンスがある。そんな「関係性」と、そのまちで体が心地よく感じるか、という「身体性」で、計4つずつ、1つの指標に4項目のアクティビティを設定。そして「あなたが住んでいるまちで過去1年間にどのくらい経験したか」を約18,000人に聞き、得点化したのがセンシュアス・シティのランキングです。

都市を動詞で評価したこと、そして主語を都市にせずに「私」としたこと。これがセンシュアス・シティの特徴であり、そこから導かれるのは、「匿名性がある、ロマンスがある、チャンスがある」この3指標の強いまちが都会的なまちの特徴であるのでは、という仮説でした。

東南康生地区  
エリアビジョン会議

# ここにしかない 地域の価値を 上げるために

日時：令和4年1月17日[月] 14:20～15:50  
場所：マルワビル 3階会議室

講師  
**田中歩**  
株式会社あゆみリアルティサービス代表取締役

2022年1月17日に、東南康生地区のエリアビジョンを検討するための勉強会として、不動産コンサルティングや仲介をおこなう株式会社あゆみリアルティサービス代表取締役田中歩氏をお迎えした講演会が開かれました。田中氏は千葉県松戸市を拠点に、地主さんの相続対策や、不動産をどのように活用すべきかの相談などを手がけられています。

講演会のテーマは、康生にしかないこの地域の価値をどのように向上すべきか、ということを考えるためのもの。前半の講演では、事業者や物件所有者を対象に、田中氏の拠点松戸市での取り組み事例や、技術的なアドバイスが多く語られました。後半の質疑応答では、7町・広域連合会の筒井事務局長の質問を皮切りに、会場にお越しの康生地区の自治会長らと田中氏との間で議論がありました。

これまでの高度経済時代における「造れば売れる、建てれば買ってくれる」という再開発のモデルはすでに立ち行かなくなっている現在、どのような再開発が可能なのか。そこで今ある空き家や空きスペースを暫定的な試みとして、事業をおこないたいという人たちが挑戦、チャレンジする場所として活用できないか。商売、事業、ものづくり、食べ物屋さん、これからの需要や新しい価値をつくり出してくれるような、地域の小さな事業家や起業家の成長が必要だと、田中さんは語ります。



講演会の様子

「軌道に乗るまでは大変な時期を見守ってあげることで、大きく育った事業者が長きにわたって返してくれる。土地所有者さんたちにはそんな心意気で考えていただくと、その町の資産も、人も生きていくし、いいことばかりになるのではないかな、と。」

そのチャレンジを土地所有者の皆さんや地域の人々が応援していくことによって、事業者たちが成長し、ビジネスモデルが回って外から来る人たちも増え、康生ならではの価値が醸成される。そういう筋道が語られました。



会場の様子



地域住民が中心となった  
コミュニティ活動支援組織

7町・広域連合会  
「次世代の会」  
の発足

2021年7月、7町・広域連合会の運営支援として「次世代の会」が発足しました。次世代の会は、30-40代の地域住民や新旧事業者をはじめ、市役所職員などの人たちが毎回30人以上参加する会議体。きっかけは「高齢化問題と次世代の掘り起こし」です。

本会にあたる7町・広域連合会でまちの自治を担う後継者問題への危機感がより強くなる一方で、地域自治に参加してみたい若手もいることから、30代から50代までの地域住民、エリア新旧事業者、新規出店希望者、イベント実施者、地域のお困りごとを解決したい人、地域包括支援センター、行政関係課・NPO法人・教育機関・民間事業者等が中心となり、プラットフォームをつくり、エリア内の課題解決やコミュニティビジネスとして、自発的にまちに必要な取組を提案、企画、協議しています。

次世代の会が設立されるまで  
7町広域連合会が自治会長を中心とする上の世代で構成される組織であり、まちでの出来事などを住人に伝え広める役割や承認す

る役割を担い、それに対して「次世代の会」は、まちづくりの実施部隊として活動しています。自分たちのまちを「こうしたい」という思いを持った人たちが集まり、自主イベントの運営やエリアに対しての出店サポート、高齢者のお困りごとと解決といった地域課題解決に向けた取り組みのための団体として2021年の7月に設立されました。

毎月第2週目の月曜日に定例会が開催され、設立当初は15名程度の参加者で始めた会議も、会を追うごとに参加する人が増え続けて現在では40名以上で会議・運営をおこなっています。会議の中で生まれた取り組みなどについては、親会となる7町・広域連合会への報告する義務はありますが、7町・広域連合会から命令・指示が下りることはありません。

当初の会議では、まちでどんなことが課題になっているかを議論するところから始まりましたが、次第に、空き屋空き店舗対策・出店希望者支援、高齢者のお困りごと支援、イベント運営・支援の3つ取り組みについての議論の方向性が集約され、それぞれが部会となって活動をおこなうようになりました。

次世代の会の事業内容

空き屋空き店舗対策・出店希望者支援としては、連携しているまちづくり組織「まちづくり岡崎」と連携を図りながら、物件の把握とともに、地域へ出店希望者などが現れた際の相談窓口として活動しています。まちづくり岡崎は中心市街地の活性化を担ってきた信頼やネットワークから、地域のオーナーさんからまちなかにあるお店の様々な情報が集まるとともに、次世代の会は日頃から地域の住民と接しているため、お店ではない

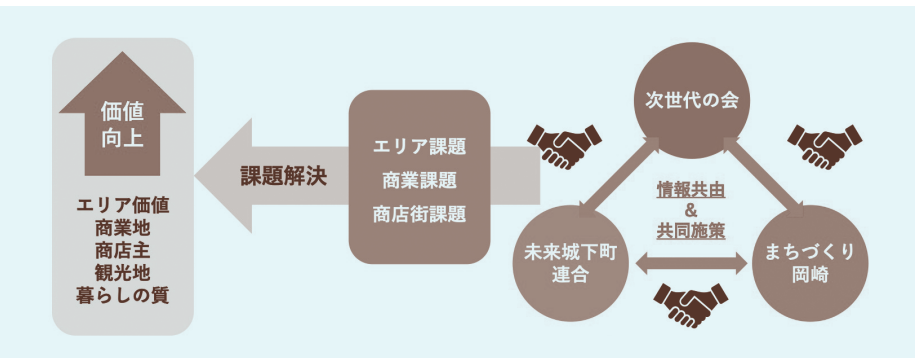
空家などの情報やオーナーとのつながりがあり、それぞれの強みを生かしながらマッチングを進めています。

高齢者のお困りごとと解決支援では、まちで暮らす高齢者の方に関わる人の「介護保険ではサポートしきれないことがあるんです。」という言葉から議論が始まりました。今ある制度では救われない、生活に困っている高齢者がいることに対して、同じ地域に住む人が、世代などを超えて、一人一人のその人らしい生活を支えるコミュニティづくりをしようとするための仕組みなどが検討されています。

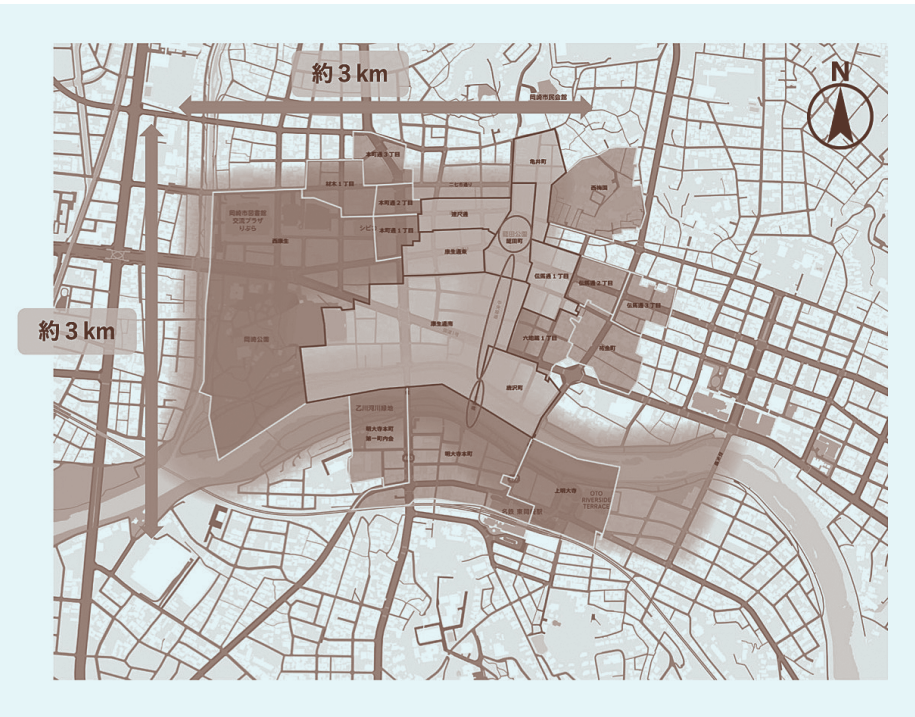
イベント運営・支援では、地域の顔の見える関係作りを目指して盆踊りや夏祭りといったイベントを地域の力でスポンサーの協賛を集めながらおこなっています。また籠田公園でのイベントが増えてくるにあたり、路上駐車やゴミの問題なども出てきたため、自治会として培ってきたノウハウ等を提供しながら、籠田公園がよりよく使ってもらえるようなイベント企画者への支援等もおこなっています。

次世代の会のビジョンと課題

次世代の会は、「まちの記憶を継承しつつ、新しい価値を創出」することで、新しいコミュニティ形成、新規ビジネスの創出・雇用創出等含めた「暮らしの質の向上・エリアの価値向上」を図っていきます。しかしながら、次世代の会は任意団体であり、自治会の担保があるとしても法人格を持っていないことから、社会的信用度が低いことが課題です。そのため、まちづくり会社として「次世代の会」の法人設立も検討しつつ、13商店街をまとめる「未来城下町連合」や「まちづくり岡崎」、市役所や関係団体としっかり連携を取り、「暮ら



次世代の会のビジョン



7町・広域連合会加盟町マップ | 広域連合会エリア

しと商い」を両立させ、エリア全体のゾーニングや中長期エリアビジョンの作成や選定をおこない、より地域の課題解決に向けた動きの加速化を図ることが必要と考えています。

また、大家にとっても借主と直接やり取りするのは不安があると思いますが、その間に次世

代の会や市役所の姿が見えると安心できると思います。課題としては、地域に住み商売をする「地の人」がもっと入って欲しいとのこと。違う地域から通って商売する「外の人」と動いていけば、地の人にも火がついて一緒にやろうとなるかなと、代表の佐谷氏は語ります。

組織図



会議の様子



「QURUWAと暮らす」でのトークイベントの様子



「QURUWAと暮らす」でのまちあるきの様子





## QURUWAシンポジウム

# Meguru Quruwa ver2.0

## 未来をアップデート

日時：2022年2月20日[日]14:00～16:30  
場所：オンライン開催  
(配信会場：Camping Office osoto Okazaki)  
参加者：  
申込者数 318名  
ライブ視聴数 109  
YouTube 再生回数 679回(3月10日時点)

### パネリスト

**藤村龍至** | Ryuji Fujimura  
建築家／東京藝術大学美術学部建築科准教授／RFA 主宰  
**清水義次** | Yoshitsugu Shimizu  
建築・都市・地域再生プロデューサー／  
株式会社アフタヌーン／サエティ代表取締役／  
一般社団法人公民連携事業機構代表理事／  
株式会社リノベリング代表取締役  
**西村浩** | Hiroshi Nishimura  
建築家・クリエイティブディレクター／  
株式会社ワークヴィジョンズ代表取締役／  
株式会社リノベリング取締役

### コーディネーター

**天野裕**  
特定非営利活動法人 岡崎まち育てセンター・りた

### 発表者

**筒井健**  
7町・広域連合会  
**佐谷繁**  
7町・広域連合会 次世代の会  
**畑克敏**  
studio36  
**飯田圭**  
Okazaki Micro Hotel ANGLE (当日は欠席)  
**近藤楓、榊笠子**  
スoszズツ プロジェクト  
**田口冬来**  
株式会社スノーピークビジネスソリューションズ

毎年度恒例の乙川リバーフロント地区まちづくりのシンポジウムを、昨年度から引き続きオンラインにて開催しました。現在のQURUWAの動きを踏まえて、新しく生まれた民間や自治会の担い手のみなさんをお呼びし、今後の民間の担い手誘致を図るための指針を得るだけでなく、現在の自治会再生の取組みを適切に周知し、QURUWAで起こっていることをより深く理解していただくことで、協力体制をより強くしていこうという意図があります。また、QURUWA戦略の目的として掲げた「観光産業都市の創造」の見直しを図るというねらいもありました。

第1部では、今から4年半ほど前に開催された社会実験「MeguruQuruwa」を振り返り、当時どんな将来像を想定していたのか、そしてそれがどの程度実現したのかについて検証しました。第2部では、QURUWAで活動をされている自治会や事業者、市民団体の方から、新たな未来を描く手がかりとなるそれぞれの取り組みについてご紹介いただきました。その後第3部では、長年QURUWAのまちづくりにアドバイザーとして携わられてきた、清水義次さん、西村浩さん、藤村龍至さんをパネリストに、第2部の発表者の皆さんも交えて、今後のまちづくりの方向性について考えていきました。

## 第1部

中川 | 4年前に実施しました「大規模社会実験 MeguruQuruwa」について、当日どのような未来を描いて、どういったことを実施したのかをお話させていただきます。  
MeguruQuruwaで描いていた未来に関して、当時のプロジェクトチームの方々がつくった手紙が当シンポジウムにおいても重要な内容になるので、そのまま読ませていただきます。  
タイトルは「未来のいち日をのぞく日」です。

まちなかに人が集い、それぞれが思い思いのことをしてる。そんな風景が「未来のいち日」にならないものでしょうか。みんなで料理が食べられるとか、気持ちよく本が読めるとか、おいしいパンが買えるとか、気兼ねなく座れるとか、友だちと一緒に勉強するとか。普段室内でやっていることを外でやってみるとか。まちなかがそういう「行ってみよう」や「楽しみたい」が集まる場所になる未来のいち日。出合いがあったり、遊びがあったり、学びがあったり、そんな岡崎の暮らしが当たり前になる未来。そんな未来のいち日、どう思いますか？その未来のいち日では「ぶらっとまちなかに

いこう」とか「まちなかには面白い人たちがたくさんいる」とか、そう考える人がたくさんいるはず。みんなが思い思いにまちを使いこなしている、そんな風景が溢れている。たとえば会話を交わさなくても、お互いの生き方や人となり、こだわりが見えてくる。そういうまちで育った子どもは、どんな大人になるんだろう？自分が「いいな」と思える暮らしを、まわりの大人を通して知っていく。そして「これだ」と思える選択肢を自分自身で選び取っていくことができる。いまの岡崎はどうだろう？子どもたちに未来の生き方の選択肢をってもらう場所はどこにあるんだろう？当たり前のようにある公共空間を「みんなが過ぐす」からはじめてみようと思う。あなたはまちどう過ぐす？そんな未来をかたちにできるのが、まちの過ぐし方の社会実験「めぐる、QURUWA」。未来の岡崎の暮らしの中で、あなたはどんなことをしていますか？

MeguruQuruwa  
プロジェクトチーム

MeguruQuruwaの目的は主要回遊動線QURUWA内の公共空間において、公民連携プログラムをおこなうことによって次の3つを検証した社会実験です。

- ・回遊性の検証
- ・公共空間の新しい使い方
- ・図書館交流プラザリぶらからのにじみだし

概要としては、2017年10月28日[土]に実施し、当初55の公民連携プログラムが予定されていましたが、小雨だったため、36のプログラムを実施しました。実施箇所は、乙川河川緑地、リぶらの前、連尺通り、籠田公園、中央緑道、この5つの公共空間です。当日、約3,000人の方に来場いただきました。来場者のアンケート結果を見ると、多く回遊された場所は、連尺通り、リぶらの前、そして乙川周辺です。QURUWA内の拠点で公民連携の取り組みをおこなうことは回遊の実現に有効と考えられるということで、QURUWA戦略の策定につながりました。

策定は2018年3月、MeguruQuruwaの約半年後。157haあるエリアのうち50%以上を占める公共空間を活用して、パブリックマインドを持つ民間事業者を引き込む公民連携プ

ロジェクトを実施することによって、その回遊を実現させ、波及効果としてまちの活性化、つまり暮らしの質の向上とエリアの価値向上を図る戦略としています。  
QURUWA戦略の目指すまちの将来像は、「これからの100年を暮らすまち ー新しい住み方・働き方・遊び方を楽しむー」。現在、数年前には見られなかったまちの活動や風景が見られ、まちのよい空気感を感じています。そして、QURUWA 戦略の目的は都市／地域経営課題の解決です。中心市街地であるQURUWAの経営課題は、エリアの衰退、高齢化の進展、まちの魅力の希薄化、働き方／雇用の多様性の欠如です。これらは地価の下落にもつながり、市税収入の大幅な減少につながります。QURUWA 戦略を推進することによって、こういった都市／地域経営課題を解決して、持続可能な都市経営を目指しています。

2021年3月には、乙川河川緑地に始まり、籠田公園、桜城橋、中央緑道の「公共空間整備／再整備」が完了しました。QURUWA 戦略を4年間進めたことで、多くのアクティビティや活動が生まれました。ハード整備と並行して「公共空間活用の社会実験(河川／道路／公園)」も実施してきました。さらに空き家／空き店舗を活用した「リノベーションまちづくり」でも公共空間の活用を運動させてきました。  
この3つをしっかりと実施したことで、QURUWAの現在地として「新しい日常」が生まれている

と考えております。改めてMeguruQuruwaで描いていた未来は、すべて実現しているわけではないと思いますが、「未来の風景」が少しずつ実現されているのではないかと感じています。

## 第2部

第2部として、6組の方から、現在のまちの動きについて情報提供いただきました。  
1組目は、QURUWA ほぼ全域が含まれる20町ほどの町内会の連合体である「7町・広域連合会」筒井さん。2021年4月からは「籠田公園・中央緑道・桜城橋マネージメント検討会議(通称：KCBM)」という誰でも参加できる会議を発足しました。「今、籠田公園を見ると、全く利用する方が変わられました。以前はちょっと暗い雰囲気があったんですけども、ほんと服装もきれいで、家族で来られている方が毎日見られますので、その違いは非常に感じています。」  
2組目は、そんな7町・広域連合会のKCBMに参加する30代、40代の方が中心となり、地域住民、新旧事業者、新規出店希望者、困り事を解決したい人など、まちのために何かしたいという人が中心になった「次世代の会」の佐谷さん。「次世代の会でおこなっているのが、空き家／空き店舗と出店者のマッチング、高齢者の困り事の把握と支援メニューの検討、7町・広域連合会であった地域イベントに関しての企画や連携支援についても考えています。」

3組目は、7年前に岡崎に移住し、QURUWA 関連のプロジェクトのコーディネートに従事したのちに、岡崎で出会った同い年の仲間4人で「studio36一級建築士事務所」を立ち上げ、現在ではこのまちの“ちょっと先の日常”を妄想した「丘の途中のマーケット」を仲間と開催した畑さん。  
「私たちが大切にしているのは、まちの特徴から「まちに足りないものとか改善すべきものは何か？」っていう計画的なところと、もう一つ、自分起点の“このまちにあったらいいな”と思うことから「自分でできることは何か？」っていう想像的なところ、この2つを同時に考えながらデザインすることを大切にしています。」  
4組目は、当日は欠席ではありましたが、山梨県出身で、2016年に転職を機に岡崎に移住をされ、株式会社スノーピークビジネスソリューションズでCamping Office osotoの立ち上げにも関わり、2020年6月にMicro Hotel ANGLEを開業された飯田さん。  
5組目は、「できることから少しずつ、持続可能な暮らしかた」をコンセプトに、日々の暮らしからSDGsの実践を目指している、そんな草の根のプロジェクトである「スoszズツ、プロジェクト」近藤さん榊さん。  
「2021年にスタートしたばかりなんですけど、スoszズツ、マーケットを籠田公園で、7月と11月、2回おこないました。わたくしたちのマーケットは、ただの「ものを売る場」というわけではなくて「作り手の発表の場」であり、「モノやコトが



シンポジウム会場の様子





同時に配信もおこないました



価値を持って行き渡る場」と考えています。」  
最後は、アウトドアブランドスノーピークの子会社であり、個人に向けたテント等の販売ではなくて、企業や組織に向けて自然を取り入れた新しい働き方を提案してサービスを提供する「株式会社スノーピークビジネスソリューションズ」の田口さん。

「働き方そのものがニューノーマルなものになっているときに、外で働いてみることを提案しています。地域の事業者さん、市民の方々、岡崎市に関わるすべての人々がより活躍できる場をつくる役割を、これからも担っていければと思っています。」

### 第3部

第3部では、「QURUWAの未来をアップデート」というテーマで、藤村さん、清水さん、西村さんにご登壇いただきました。

西村 | リバーフロントの計画、いわゆる公共事業から始まって、そこからちょっとシフトチェンジして、やっぱり整備だけじゃなくて、活用とか、そこで暮らす人たちのなりわいとか日常の暮らしをどうつくっていくかっていうことを、併せて少し考えながらやってきた5年ぐらいの間だと思います。でも、いい感じでその公共投資があったっていうことが、ものすごく力になって思うんです。公共空間の整備がなかったら、なかなかこういうふうにはならなかったと思うんですけど、そのハードの力もすごく僕は大きかったんだろうなって思います。

藤村 | 西村さんが関わられた佐賀の中心部もそうだと思うんですけども、空地を利活用していくうちに、周辺の不動産の整備や民間投

資が活発化してって、民有地のまちの在り方がどんどん変わってきていらっしゃるんですよね。そういう例を見ている、岡崎の民有地がこれからどう動いていくのが、実は本丸なんだと思います。  
清水 | KCBM、この動きが非常にユニークだなと僕は思いました。町内会が普通のまちでは今機能していません。本当にひどい状態です。町内会は、政治的にはよく使われますけども、機能していないです。新しい住民と古い住民の間が、調和が全く保たれていないまちがほとんどです。なので、マンション開発がこの後ぼこぼこっと起きてきたら、新しい住民は古い住民と交ざり合いません。それが多くのまちでは見られる傾向なんですけど、どうも岡崎の動きはこれと違う動きが今起こってきてるんじゃないかなと。ここにまず着目すべきだなと思います。これは連合町会的なものの意味合い、それが機能する形で岡崎のまちを変えていったら、どんなことが起きるかっていうことを想像してみると面白いかなと思います。こんなことが起きてるまちは、ほんとと繰り返しですが、他に見たことがないという、そういうことです。なので、今日は筒井さん、それから次の世代の代表の方々が、両方そろって、こういうQURUWAの戦略会議的なものに出てこられてるってのが、一つ面白いところだなと思います。もちろ

んその後登壇されたコンテンツの担い手の人たちの役割は、大変重要であるということは当たり前なんです。不動産オーナーでもあれば、まちの町会を代表する立場でもあるっていうのを兼ねている人たちの役割、これがものすごく僕は重要だなと思います。  
そのときに「所沢型」、つまり容積を目いっぱい使って、高いマンションをぼこぼこぼこっと、QURUWAの開発した公共用地の脇に建てていけば、いいまちができるだろうかと、いやそんなことはどうもないんじゃないかなと僕は思います。  
じゃあ、どんなふうなまちになったら岡崎のまちは楽しくなるんだろうか。食べ物屋さん、ファミレス以外はほとんどないという悲しいまちを、岡崎の人たちが目指すんだろうかという、決してそんなことはないだろうと思うんです。もっとユニークな個店というか、個別のお店が生きる岡崎のまちの方が楽しい。そんなに高くない、ある程度の容積の建物が立ち並ぶまちと、うまく調和がつけられることが望ましいんじゃないかなっていう、そんなイメージです。  
なので、岡崎モデルについて、「それって一体どんなまちなの？」っていうことを少し語れると、今日の会の意味がはっきりするんじゃないかなと思います。

### 関連プロジェクト

## QURUWAと暮らす2021 QURUWA アクションデイズ

| 実施日：2022年3月19日[土]～21日[月・祝]

### ① 3月19日[土] 地元イベント ローカル・アクションDAY

籠田公園周辺の町内会を主体とした「エリア活用フェア実行委員会」による桜城橋竣工2周及び中央緑道再整備1周年に対するイベントを開催し、桜城橋では模擬結婚式などがおこなわれました。

### ② 3月20日[日] スモール・アクションDAY

〔桜城橋橋上広場〕  
一般参加型の企画として、岡崎市シビックセンターの協力によるパフォーマンス企画や各種ワークショップを実施しました。

〔中央緑道〕  
アートと暮らしの提案として、MEMORY CHAIR & HOUSE VISION展を開催し、中央緑道の空間づくりを実施しました。  
〔籠田公園〕  
イベントの本部&案内所機能としてテントを設置し、イベントの案内に努めるとともに、来訪者の周辺店舗への誘導企画を実施し回遊性の向上を図りました。また、参加者の能動的な楽しみを見つけられる企画として「ドローン操縦体験」を実施しました。

### ③ 3月21日[祝・月] Musee Marche プレイヤー・アクションDAY

市内のプロデュース事業者と美容室ミューゼによる大規模なマルシェ企画(47店舗)や橋の上でのブライダル企画などが実施され、新たなプレイヤーとの出会いにつなげました。

桜城橋橋上広場の休憩所、そして橋詰広場のトイレが2022年3月に供用開始されました。桜城橋橋上広場や中央緑道活用等に際して来園者への課題とされていたトイレ設置が実現し、桜城橋橋上広場の更なる活用の推進が期待されます。  
今後は乙川リバーフロント地区公民連携まちづくり基本計画(QURUWA戦略)における暮らしの質の向上、エリアの価値の向上に向けた事業展開を目指し、桜城橋橋上広場、中

央緑道及び籠田公園で、多くの市民の方にQURUWAエリアを体験していただく企画を実施することにより、岡崎ならではのコンテンツを醸成、発展させ、今後のQURUWAエリアの活用等につなげていきます。  
なお、2日目の「スモール・アクションDAY」では、ドローンを使って上空からQURUWA各所にいるみなさんを撮影する「スカイスマイルチャレンジ」も実施しました。



ローカル・アクションDAY



スモール・アクションDAY



Musee Marche | プレイヤー・アクションDAY





関連プロジェクト

QURUWA  
出店情報

QURUWAではさまざまな店舗が新しくオープンしたり、移転したりしています。2019年から2021年までの間の出店情報を以下に整理していますが、毎年10件ほどの店舗が誕生し、QURUWAの新しい日常をつくっています。



2019年
① シバタ食堂   カレー、エキュメ内で営業
② コネクトスポット   NPO法人(障害福祉事業)
③ みんなのおうち連尺   託児所
④ タックメイトセンガ(DM710) コンビニエンスストア/セレクトショップ
⑤ 和カフェ あずきあん   カフェ
⑥ さくらこ。   コミュニティスペース&弁当販売

2020年
⑦ 野菜日和   有機野菜をメインにしたカフェ
⑧ グレイトフルズ   ハンバーガー
⑨ 502   美容室
⑩ OKAZAKI Micro Hotel ANGLE   ホテル
⑪ ie   美容室
⑫ New Stand WOW   パナナジュース専門店
⑬ 茶楽音   喫茶店
⑭ Quiet Village   ハンバーガー
⑮ 弁才天   フルーツ大福
⑯ ティースタンドロブ ドリンクとスイーツのテイクアウト専門店
⑰ ホテルリブマックス岡崎   ホテル

2021年
⑱ 洋菓子店 LIFE   ケーキ
⑲ 小料理屋 ecumer (エキュメ) クラフトビール専門店期間限定出店
⑳ 古今   饅屋
㉑ NUR HARI SPOT   鍼灸院
㉒ 厳選屋   ホットドック他
㉓ スパイスカレーかいらす   カレー
㉔ アユミペーカリー   パン
㉕ BIOVERT COFFEE   コーヒー、カレー
㉖ Ten Cycle   古着屋
㉗ シバタ食堂   カレー、BIOVERT COFFEE 内で営業
㉘ RushOut   杉浦メガネ横の古着屋
㉙ MIRAI RAMEN   ラーメン

会議

2021年度  
乙川リバーフロント地区まちづくり  
デザイン会議

デザイン会議とは、QURUWAプロジェクトへの提案・助言・評価とともに、  
公民連携と都市デザインのクオリティコントロールをおこなうため、  
まちづくり専門家と主要まちづくり4部局等から構成された戦略会議体のことです。

●メンバー

[乙川リバーフロント地区まちづくり

デザインアドバイザー]

清水義次 | 株式会社アフタヌーンソサエティ代表取締役

藤村龍至 | 東京藝術大学准教授

西村浩 | 株式会社ワークヴィジョンズ代表取締役

泉英明 | 有限会社ハートビートプラン代表取締役

伊藤孝紀 | 名古屋工業大学大学院准教授

長谷川浩己 | 有限会社オンサイト計画設計事務所

[民間事業者]

[岡崎市職員]

して、単なるイベントだけでない、岡崎市の日常が垣間見える使い方を検討していきました。

- 議題3: 籠田公園の活用について  
籠田公園が再整備され、以前より人通りは増えて  
が、日常的にまちを歩かせる仕掛けをしていく必要  
がある。QURUWA全体で「歩く」ことをどうプロ  
モーションしていけるかを議論しました。

●第3回

日時: 2022年1月19日[水] 13:30-16:15

場所: 岡崎市役所西庁舎 7階 701会議室

- 議題1: 前回デザイン会議の振り返り
- 議題2: 情報共有 (「歩く・まわる」に関わる取組について)
- 議題3: 議論 (テーマ: QURUWA 地区内の取組の改善検討)

- ① デジタルサイネージの有効活用について
- ② 桜城橋橋上広場南側の使い方について
- ③ QURUWAと暮らす Vol.2の企画について  
議論をおこないました。

●第1回

日時: 2021年8月5日[木] 11:00-16:00

場所: 岡崎市役所西庁舎 701会議室、ZOOM

- 議題1: 「QURUWAシンポジウム」及び  
「#QURUWAと暮らす」の振り返り  
「QURUWAシンポジウム」の開催に向け、できあ  
がった公共空間をどのように使っていくかなど議論  
すべきことが確認されました。また、「#QURUWA  
と暮らす」での実施内容について議論しました。

●議題2

- ① デザイン会議の実施方針とQURUWA戦略の  
更新について
- ② QURUWAのローカルブランディングと情報発  
信について
- ③ 太陽の城跡地  
について議論をおこないました。

●第2回

日時: 2021年10月12日[火] 13:00-16:15

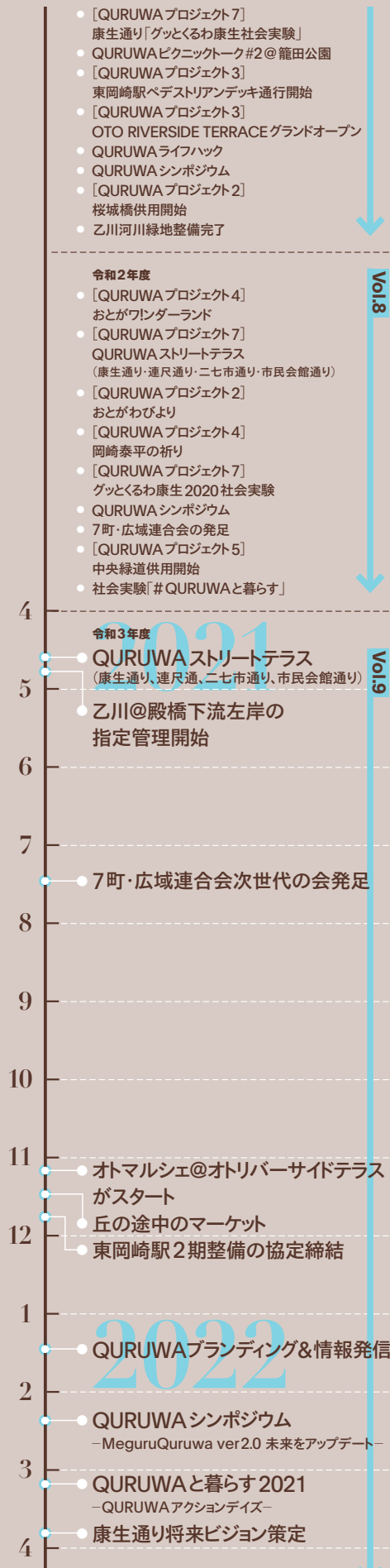
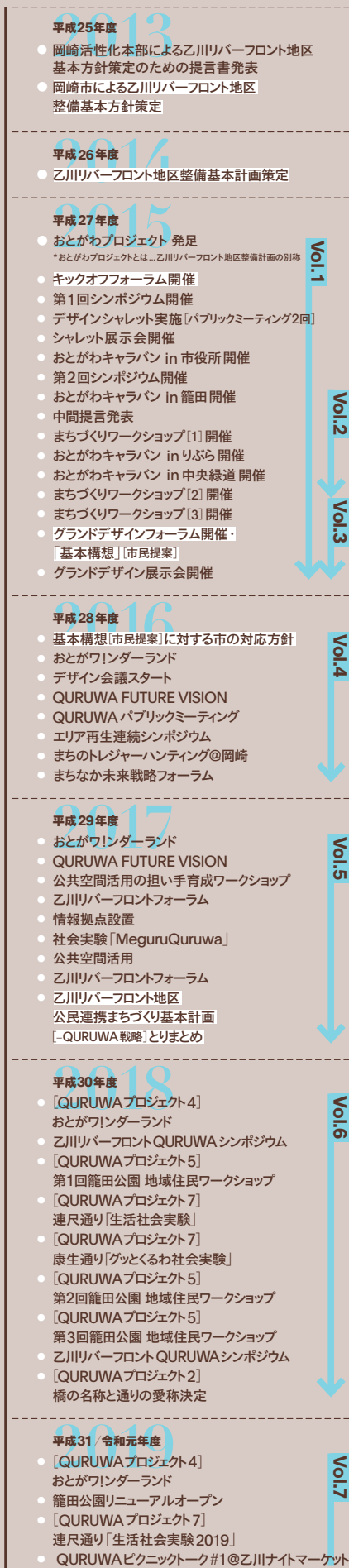
場所: 桜城橋橋上広場、籠田公園

- 議題1: QURUWA 戦略の推進に関わる  
現状の課題の共有
- 議題2: 桜城橋の活用について  
事業者のハードルを下げるため施設維持管理の  
手法を再整理してはどうか、まちを象徴する場所と



# PROJECT TIMELINE

## プロジェクトのタイムライン



## BACK NUMBER

### Vol.1

キックオフフォーラム  
シンポジウム  
デザインシャレット  
中間提言書  
[収録]

### Vol.2

キックオフフォーラム  
シンポジウム  
デザインシャレット  
中間提言書  
[収録]

### Vol.3

おとがわプロジェクトの全体像  
ランドデザインフォーラム  
市民インタビュー  
[収録]

### Vol.4

おとがわプロジェクトの全体像 | リノベーションまちづくり | かわまちづくり | 基本設計ワークショップ | シンポジウム | まちのトレジャーハンティング | フォーラム | パブリックミーティング | 3つの会議 [収録]

### Vol.5

[特集]  
QURUWA戦略  
乙川リバーフロント地区のまちづくり3年目の取り組み  
[収録]

### Vol.6

[特集]  
暮らしを豊かにするまちの使い方とは  
乙川リバーフロント地区のまちづくり4年目の取り組み  
[収録]

### Vol.7

[特集]  
進むQURUWAプロジェクト  
乙川リバーフロント地区のまちづくり5年目の取り組み  
[収録]

### Vol.8

[特集]  
進むQURUWAプロジェクト  
乙川リバーフロント地区のまちづくり6年目の取り組み  
[収録]

## CREDIT

発行元 岡崎市  
発行日 2023年3月  
企画・編集 株式会社都市機能計画室  
デザイン neucitora

問い合わせ先:  
岡崎市まちづくり推進課  
QURUWA戦略係

tel: 0564-23-7421  
mail: quruwa@city.okazaki.lg.jp  
web: https://quruwa.jp



LINE

Instagram